

〈編集後記〉

第十六号をお届けする。これまで刊行してきた母体である短期大学日本語日本文学科が募集停止となり、編集・発行の場は大学人文学部日本文化学科に移った。今号は再出発の号でもある。引き続き、本研究誌から発信された内容が、学問・研究の進展に少しでも寄与できればと思う。忌憚なきご批評を冀う次第である。

最近、ミニ博物館の類が面白い。直接モノに触れることができる体験コーナーや、単に文字情報だけではなく映像媒体やタッチパネルを利用してのクイズなど、様々な試行錯誤がなされている。レプリカであろうと、ガラス越しにしか観てこなかったこれまでとは違い、新鮮な感覚すらおぼえる。

翻って自分の講義のあり方を思う。様々に情報や刺激に溢れた中で過ごしてきた若者に、伝える工夫をしてきたのかと。現代の様々な文化的現象であろうと、古き時代のことであるうと、「知る」楽しさを、如何にすれば伝えられるのか。試行錯誤はまだまだ続く。本誌も、そうした一翼を担う存在であれば良いのだけれども。

(Y)

〈執筆者一覧〉

孫 久富 本学教授
中西 健治 本学教授
山本 和明 本学助教授
短大日本語日本文学科

相愛国文 第十六号

平成十五年三月二五日 印刷

平成十五年三月三十日 発行

編集・発行 相愛大学人文学部日本文化学科

〒559-0033 大阪市住之江区南港中四-四-1

Tel 〇六-六六一二-五九〇〇(代)

印刷所 和泉書院

〒543-0002 大阪市天王寺区上汐五-三-八

Tel 〇六-六六七七一-四六七